

## 令和4年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 仁科 弘重

「4月」という言葉や木々の新緑（みどり）に、新たな1年の始まりだけではなく、未知なるものに遭遇する高揚感も感じられる頃となりました。

この佳き季節に、既に成人となられている1898名の皆さんを、愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。新型コロナウイルスは未だに収束する気配をみせておりませんが、こうして3年ぶりに、入学生全員が一堂に会した入学式を挙行できますこと、大変嬉しく思います。

「ご入学、おめでとうございます。」愛媛大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。

また、保護者の皆様にも、お子様のご入学をお喜び申し上げます。

本日は、入学生のご家族、関係の皆様方には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、この会場においでいただくことは叶わず、録画した動画をご覧いただくこととしております。また、通常であれば、多数ご臨席をいただいておりますご来賓の方々も、本年は、愛媛県の田中副知事、愛媛大学校友会の高橋会長のお二人に、代表してご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学は、文系から理系まで、7つの学部と、大学院として6つの研究科、1つの学環を擁し、1万人近い学生が学ぶ、四国最大の総合大学です。

愛媛大学のことを少し詳しく述べますと、研究面では、本学の3つの先端的研究センターが、文部科学省から「全国共同利用・共同研究拠点」に指定されています。この「3」拠点という数は、旧帝大を除くと筑波大学の4拠点に続くものです。また、教育面では、本学の強みの一つである教育改革で、本学の教育企画室が、教育関係の全国共同利用拠点として認定されています。さらに、地域貢献では、日本経済新聞社が全国761の国公私立大学を対象に行っている「大学の地域貢献度の調査」で、本学は総合ランキングで5位となっています。

皆さんが入学される愛媛大学は、特に「目立つ」大学ではありませんが、多様な面で確実な力を持つ大学です。皆さんは、この愛媛大学で、自らの将来設計に

繋がる勉学に取り組み、実力を付けてください。

さて、最初に新型コロナウイルス感染拡大防止についてお願いします。

愛媛大学では、この4月から、できるだけ本来の大学生活を送ってもらうために、授業は対面を基本とすることとしました。この状況をできるだけ維持するために、感染防止対策の徹底をお願いします。この1月から4月3日までの学生の感染者は250人ですが、そのうち、感染経路がわかっている人の72%は、会食、友人宅での食事、カラオケ、帰省時の旧友との再会が、感染経路です。学生の皆さんにこれらの行動さえ避けてもらえれば、学生の感染者数はかなり減らすことができ、本来の大学生活を維持することができます。是非ともよろしく願いいたします。

次に、愛媛大学の目指す方向性について、述べます。

愛媛大学は、平成16年に国立大学から国立大学法人に変わり、その後、6年ごとの中期目標期間が設定され、この4月からは、新たな「第4期中期目標期間」に入りました。

「第4期中期目標期間」に入るにあたって、全学で議論し、本学が目指す方向性を決めました。少し難しいですが、読ませていただきます。

愛媛大学は、「地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する」というビジョンの下、

- (1) 少子化、高齢化、地球環境問題の深刻化という中長期的課題に加えて、Withコロナ社会における価値観や社会システムの再構築という新たな課題に、全学を挙げて取り組む。
- (2) 大学も社会の変化とともに機能や社会的役割を変容させる必要があることを認識し、組織としてのダイバーシティを推進する。
- (3) 全世代対応型の「地域における知の拠点」としての多機能化を図り、Sustainableな（持続可能な）社会、Resilientな（回復力のある）地域社会の構築に貢献する。

これら3つが、本学が目指す方向性です。

皆さんも気づいていると思いますが、城北キャンパスの正門のそばに、3階建ての新しい建物が完成しました。これは、「EU. Regional Commons」と言いますが、「学生、留学生、教職員、地域ステークホルダーなど、すべて

の関係者が集い、考え、学び、応える、イノベーションの拠点」です。見ていただければわかりますが、あの建物と道路の歩道との間には、垣根がありません。「愛媛大学は、地域のすべての人に対してオープンである」ことを表しています。

さて、やはり、ロシアによるウクライナ侵攻に触れざるを得ません。

3月7日に、「ウクライナ情勢について」と題した学長メッセージを出させていただきました。しかし、その後のウクライナ国民の人道、人命への迫害は止まることを知らず、ますます凄惨なものとなっています。一刻も早く、このような人道、人命への迫害が止められることを、強く希望します。

さて、私たち日本人は、ほぼ全員が、ロシアによるウクライナ侵攻に憤りを感じています。しかし、先日のロシアの独立系メディアによるロシア国民への調査結果によると、ロシア国民の80%がプーチン大統領の政策を支持しているとのことです。

このことは、ロシア、ウクライナ両国のこれまでの歴史的経緯が原因の一つですが、ロシアのマスコミの報道内容も大きい影響を与えているはずです。マスコミによる報道の内容は、事実と、報道する立場の人の「間」で作られるものです。私たちは、簡単に「事実」と言いますが、本当の「事実」は、「わからない」と言うのが、正しいと思います。「事実」だと思っているものでさえ、本当の「事実」をある側面から見たものに過ぎないことは多々あります。

学術の研究においても、実験データという形で、「事実」と思われる数値が得られますが、本当の「事実」にどのような測定を行うかによって、得られるデータも変わってきます。要するに、データも、必ずしも、「事実」そのものではないことがあります。

しかし、「本当の事実はわからなくても、先入観をもたずに、より事実に近いものを把握し、発信する」ことが重要であり、このことは、学問の府である大学には強く求められることです。

現在、私たちは、世界中に張り巡らされたネットワークによって、多くのデータ、情報を得ることができます。しかし、重要なのは、私たちが、その中からより事実に近いものを見つけられるかです。

どのようにすれば、より事実に近いものを見つけられるのか？

やはり、永い人類の歴史の中で積み上げられてきた「学問」を学ぶしかないと思います。より多く知識を得て、論理的思考力を身に付ければ、より確からしいものを識別できるようになるはずです。これからの4年間、より多くのことを学び、より確からしい事実を見極める能力を身に付けてください。

最後に、人類にとって中長期的課題である「地球温暖化」、ほぼ2年前からの「新型コロナウイルスによる感染症」、さらに、2カ月前からの「ロシアによるウクライナ侵攻」。

単に解決が難しいと言うことではなく、産業革命以来の技術の進歩に裏付けられた世界の発展と、民主主義、人権、人命が最大限に尊重される世界共通の価値観が、大きく揺らいでいます。

皆さんは、価値観が揺らぎ、かつ、この先にどのようなことが起こるのか見通せない時代を生きることになります。

20歳前後という、人生でもっとも感受性の高い時期に、この変動の時代を過ごすことになる皆さん方が、価値観、生活様式、社会の仕組みを新たに作り直すことに大きな貢献をされることを期待します。

皆さん方が、愛媛大学のさまざまな制度や取組みを活用して、愛媛大学での学びを充実したものとされ、立派な社会人に成長してくれることを期待し、私からの式辞といたします。